

訪

訪問看護ステーション事業協定を締結 真室川町・金山町・鮭川村・公益社団法人山形県看護協会による

4月17日、真室川町、金山町、鮭川村の3町村と公益社団法人山形県看護協会は、訪問看護ステーション事業協定を締結しました。

訪問看護とは、看護師などがその人の自宅など生活の場に出向いて、看護ケアを提供し療養生活を支援したり、自立を促したりするもの。病気や障害を持った人が、住みなれた地域や家庭で、その人らしく療養生活を送れる地域社会の仕組み「地域包括ケアシステム」を築くうえで大変重要な位置づけとなっています。

この事業は、県内でも特に最上地域の北部圏域が訪問看護サービス体制の空白区域となっていることが背景にあります。山形県の支援を受けながら、3町村が協力して県看護協会が運営している訪問看護ステーション新庄のサテライトとして、町立真室川病院内に設置・運営するもので、今年8月からサービス提供が始まる予定です。

退院後のケアや在宅で療養したいという要望に応えるこのシステムは、介護や医療が必要になっても24時間365日安心して暮らせる環境づくりを大きく前進させるものと、大きな期待が寄せられています。



が

がん特異的揮発性バイオマーカー同定研究事業 探知犬を使ったがん検診についての町民説明会を開催

5月2日、がん特異的揮発性バイオマーカー同定研究事業町民説明会が開催されました。全国の自治体で初の試みとなる事業について理解を深めたいと、町内外から150名以上が出席。日本医科大学の宮下正夫教授が、当町で今年度実施する精密器材と探知犬を使ったがん検診の研究事業について講演しました。

外科医として長年がんと向き合ってきたという宮下教授。多くの患者や手術を通して、近年では早期発見や予防することが重要だと考えるようになったと話します。

がん探知犬として採用している犬種はラブラドル・レトリバー。同種には「感覚・性格・忠誠心」が備わっていると宮下教授。「実は犬の優れた嗅覚は、色々なところで利用されている。例えば麻薬探知の現場などだ」と続けて話され、犬の嗅覚を用いてがんを発見することの実用性について説明されました。

実験では、早期のがんについても極めて高い確率で発見できています。がん探知犬による一般住民の検診は初の試みであり、まだ研究段階。しかし、この検診がきっかけとなり、がんの早期発見が促進され、健康長寿の町になることを願います。

